

「生日記」 学習記録

九月四日

①

古人有言曰、人無父母、生日當倍悲痛、
七月廿三日、余生日也、晨起端坐、因憶、吾父母皆不幸早世、
去今已十餘年矣、如使父母存於今、則父年五十九、母年五十二、
髮未全白、齒未全落、身體未全衰憊、

読み

古人言にありて曰く、人は父母無くんば、
生日當に悲痛倍なるべし。

(左起子)

七月廿三日、余の生日なり、晨起し端坐す、因つて憶ふ、

吾が父母皆不幸にして早世す、

(繁子)

今を去ること已に十餘年、もし父母今に存ししめば、

則ち父は年五十九、母は年五十二、

(良子)

髮未だ全白ならず、齒未だ全落せず、
身體未だ全衰憊ならず。

(正)

訳

昔の人の言っている、人は父母を亡くすると、誕生日にはまさに悲しみは倍になる、と。

七月二十三日は、私の誕生日だ。早く起きて正座する。私の父母はどちらも不幸にして早く亡くなった。今を去ること十年余りになる。

もし、今父母が生きておられれば、父は五十九歳、母は五十二歳。

髪はまだ全部が白くはならず、歯はまだ全部抜けてはおらず、体はまだ全体が弱ってはいないだろう。

言葉

晨シ 朝 生氣に満ちた早朝の意に用いる

端坐シ タンザ 行儀よくきちんと座る

因シ イン よりて

矣 なる 文末につけて、断定や推定の語気をあらわすことば 訓読しないこと

ともある

如シ ゴトシ もしくセバ

憊シ バイ ハイ 疲れる